

自己評価結果公表シート（2021 年度）

1 本園の保育方針

コンセプトは「かんがえるまち」

こどももおとなも同じまちの仲間として、お互いを尊重しながら、一緒にくらす。一人ひとりが幸せにくらせるように、こどももおとなもかんがえる。そんなまちづくりに取り組んでいます。

<大切にしている姿>

自分らしくある・自分でかんがえる・夢中になる・クリエイティブである

チャレンジする・おもしろがる・自分たちのまちづくり・いっしょにかんがえる

2 重点的に取り組む目標・計画

異年齢でのくらしが本年度で 4 年目。異年齢保育を経験した園児も一周し、保育にも安定感が生まれた。チームごとの連携もうまくできるようになっており、園として目指すことが共有されるようになった。一方で、園全体で見ると、それぞれのチームがバラバラに動いている場面も見受けられる。来年度には 2 歳児保育や給食室がスタートすることもあり、園全体で連携をとり、「みんなで見守る」ことがより重要となってくるだろう。そのため、「みんなを信じる」をテーマに、いろんな方面でのコミュニケーションを充実させ、頼り/頼られる、園全体で子育てができるチームづくりを目指す。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	達成及び取り組み状況
くらしの充実	園が大切にしてくらしとはどのようなものなのか、園全体で考えるミーティングを開催するとともに、期ごとのふりかりの際に、くらしの項目を意識的に入れ、くらしの保育過程づくりを行った。少しずつ、ていねいに、自分らしくくらすことの大切さが意識されるようにはなったものの、実際に保育場面で実践されるまでには至っていない。
一人ひとりが輝く行事	オリンピックやまちのきろくなど、行事ごとに、一人ひとりが輝けるような企画づくりに力を入れた。集団での活動も大切にしつつ、それぞれの良さが出る場面も見られたが、行事の中だけで全てのこどもが力を発揮することはむずかしかったり、本番に至るまでの過程をどこまで伝えるかについても課題は残った。
ねらいを実践に	新しい保育課程が出来上がり、こどもの姿をふりかえるサイクルができつつある。ふりかえりから適切なねらいをたて、それを具体的な手立て（環境づくりや関わり）につなげていくために、常に意識できるような、本質的でシンプルなねらいを立てるようにした。その結果、ねらいを意識しながら保育する場面がよく見られた。
2歳児の受け入れ準備	2歳児プロジェクトでミーティングや園見学を重ね、園として大切にすることや、実際にそれを実現するための手立て、保育室の設計に至るまで、あらゆることをメンバーが主体的に取り組んだ。
自園給食開始準備	おだいどころプロジェクトでミーティングや園見学を重ね、園として大切にすることや、実際にそれを実現するための手立て、調理室の設計に至るまで、あらゆることをメンバーが主体的に取り組んだ。
ミドルリーダーの育成	みんなで見守ることを進めていくために、それぞれのチームリーダーが主となって、ときにはメンバーとともに育つという意識を持つことが大事である。リーダー会議を月2回程度開催し、ミドルリーダーの意識が浸透したことで、チーム内のコミュニケーションだけでなく、チーム間、園全体でのコミュニケーションも活発になった。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2歳児やおだいどころだけではなく、園庭やSDGsなどのプロジェクトがスタートし、スタッフがチームをつくり主体的に活動する場面が増えた。また、チームのリーダーが主となって、園全体で考える、園をマネジメントするという意識も芽生えてきている。保育についても同様であるが、お互いのことを信じることができるからこそ、一人ひとりの良さを認めるだけではなく、課題もふまえたうえで、どのような関わりが必要なのか。ときには壁となり、一緒に成長していくことができるような時期に来ているのではないだろうか。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み
まちとの関わり	むつみこども園がある地域を資源として活用していくことを意識的におこなっていきたい。まちに出かけていったり、まちの人に園をひらいていくことでの対話を通して、まちへの愛着や、くらすことへの意識が高まっていくことを期待する。また、まちの人にとっても園が有効な資源として活用していただけるような活動を行なっていききたい。
保護者の参加	新型コロナウイルスの感染拡大により、保護者が園の活動に参加する機会が減っている。園のことを知ってもらったり、子育ての支援ができるような仕掛けを進めていく。
安全・衛生	こどももおとなも主体的に。自分たちで自分たちの身を守れるようにするために、どのような対策が必要なのかを検討していく。
自分らしくくらす	自分らしくくらすことの意味を引き続き考えていく。特に、実際の保育場面でどのような手立てが必要なのかについて検討する。
みんなで見守る	園が大切にしていることは一人ひとりが、つまり、園にいる全員が、まちの一員として自分らしくくらすこと。サポーターを中心に、支援があれば輝ける子のサポートをし、まちやおうちの担任は、全員との関わりを大切にする。園全体での連携を深めていききたい。
仕事の見える化	組織が大きくなる中で、互いの仕事が見えにくくなっている。園全体で連携をとり、それぞれが自分らしくはたらくために、ICTを活用するなど、仕事の見える化に取り組んでいく。
園全体のマネジメント	これからのむつみがどのようになっていくべきなのか。変化が早い時代の中で、経営的な目線も含めて、園全体で考えていく。特に、長時間の保育を望む家庭が増えていく中で、園としてできることについて検討していく。
こんな時こそクリエイティブに	2歳児保育やおだいどころ、サポーターの制度がスタートし、まちの担任やフリーのメンバーも大きく変わった。さらには工事も控えている。数年ぶりに、変化の多い年となる。こんな時だからこそ、これまでにこだわらず、一人ひとりがクリエイティブに活動していけるように心がけていききたい。